

<今回>316回目 2022年4月22(金)15時~18時 第9会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p394、年代の誤差 より

<前回>315回目(22-4-8)出席者 8名
資料(22-04-08-1)前回のまとめ(清水)
一2)多元35号(榛葉)

A 報告 新型コロナウイルスはかえって増えてきたが、重症が少ないとして、政府の方は景気対策を優先しているかのよう。死亡者の多いのが気になる。ウクライナのロシア軍は公認の強盗集団のようだ。

B 資料 多元35号の古田先生の持統紀に記載された吉野への行幸記事について、榛葉氏が原紙をコピーして要点を紹介した。①丁亥(日取り)の考証。②それを白村江の戦い(663年)の直前にあててみる。③すると最終回は持統11年(697年)天智2年になる。④博多湾からの出撃は鴻臚館などがあり、秘密保持が困難、有明海の方が海流に乗れてよい。⑤大宰府から吉野ヶ里まで一直線の軍用道路と思われる堤土塁遺構が出ている。

高山氏から遣唐使に大使が二人、任命されていることが不自然で、近畿勢力の中に2派があり、別の派毎が任命したと考えるのが自然とされた(北路と南路に分けて派遣したのは遭難の確率が不明でどちらが成功してもよいように、それぞれの船団毎に長を任命したのではないかと。)

C 読書 時間が無くなったので、泰山の儀式の部分のみ読書した。

- 1) 麟徳3年(666年)、正月の泰山の儀式には諸藩の中で倭国使のみ招かれた。日本国使は劉德行についてこの後、唐に行っている。(劉仁軌は新羅、百済、耽羅、倭国の4国の酋長を率いて参列)
- 2) 旧唐書に倭国伝と日本国伝と分けられて記されたのも必然の結果である。

D 午前中の多元古代史 WEB 会議があり、今週は藤田隆一氏の担当で、善光寺縁起の解説の一部が紹介された。コロナで昨年お祭りが延期になっていたのを、今年を実施するとの方針で現在前立観音は公開中である。

写本は3本ある。善光寺縁起集註書として残されている。本尊は絶対秘仏(一光三尊)で、1尺5寸の阿弥陀菩薩と言われている。鎌倉期にそっくりの前立本尊が鑄造され、それが現在7年ごとに公開されている。2021年の予定がコロナの影響で今年になった。4月3日から6月29日まで行事が続く。

縁起の一部を解説した。

御像は百済の聖明王から欽明13年喜楽元年に送られた。九州年号が多く出ている文書になっている。物部、中臣の廃仏によって難波の堀に捨てられた仏像が本田善光が堀江を通った時に呼び掛けて持ち帰ったとされる。善光寺縁起の崇仏廃仏戦争に蘇我氏は登場しない。もっぱら聖徳太子が勝利したことが強調されている。

聖徳太子と善光寺如来との往復書簡は3通あるという。これも非公開であったものを明治5年、時の知事が公開させ書写した。喜楽は貴楽ではないか、など細部にわたって質問があり、最後は久保さんが信濃と九州王朝の関係を論じ始めたので、機会を見て信濃、筑紫の関係性をどう見るかで時間を取ることにした。

2022-5-9日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室
一5-23月 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室